

各 位

会 社 名	株式会社 JVC ケンウッド
代表者名	代表取締役社長 兼 CEO 江口 祥一郎 (コード番号 6632 東証第一部)
問合せ先	取締役 兼 CFO 藤田 聡 (TEL 045-444-5232)

親子会社間貸付金の整理による為替評価損益リスクの軽減に関するお知らせ

当社は、米国子会社の当社に対する外貨建貸付債権の一部について、平成 25 年 3 月 8 日付で、米国子会社から株主としての当社に対して金融資産の分配（有償減資）を行うことにより消滅させ、当社とグループ子会社間における外貨建の借入金と貸付金をバランスさせることにより、外貨建貸借取引に伴う為替評価損益リスクを軽減しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 為替評価損益リスクの軽減について

当社では、為替変動によって生じる 2 つの主な評価差額（外貨建貸付・借入の円換算差額および外貨建貸付・借入を除く外貨建債権・債務の決済差額）を営業外収支の為替差損益として計上しており、第 3 四半期（平成 24 年 10 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日）においては、第 3 四半期末の対米ドル為替レートが第 2 四半期末に対して円安となったことにより、2 つの評価差額を合わせて約 17 億円の為替差損が発生いたしました。

これに対して、当社は外貨建取引にかかる為替評価損益リスクへの対策を検討していましたが、この度、米国子会社から当社に対する金融資産の分配（有償減資）により、当社とグループ子会社間における外貨建の借入金と貸付金をバランスさせ、2 つの評価差額のうち影響の大きい外貨建貸付・借入の円換算差額を大幅に減少させることといたしました。

なお、もう一つの評価差額である外貨建債権・債務の決済差額については、為替予約を行うことにより、為替評価損益リスクの軽減をはかっております。

当社は、海外子会社との外貨建貸借取引において、これまで米ドル建を中心に約 100 百万米ドル相当の借入超過となっており、円安局面では借入超過額の円換算額が増加するため、その増加額を為替差損として計上してまいりました。

第 4 四半期も、第 3 四半期末の対米ドル為替レートに対して円安傾向が続いており、引き続き為替差損が発生するリスクがあるため、米国子会社の当社に対する米ドル建貸付金のうち、当社とグループ子会社間全体での借入超過額にほぼ相当する 99 百万ドルについて、平成 25 年 3 月 8 日付で米国子会社から株主としての当社に対して金融資産の分配（有償減資）を行うことにより消滅させ、当社とグループ子会社間における外貨建の借入金と貸付金をバランスさせました。これにより、当社とグループ子会社間における外貨建貸借取引にかかる為替評価損益リスクを軽減し、円安局面で為替差損の発生につながる最大の要因に対処いたしました。

米国子会社から当社に対して米ドル建貸付金 99 百万ドルの分配により、当社の個別貸借対照表においては、借入金、米国子会社にかかる関係会社株式などが減少しましたが、当社の連結貸借対照表における本件の影響はありません。

2. 業績への影響

本件による当期連結業績への影響は、平成 25 年 2 月 1 日に公表しました「平成 25 年 3 月期通期業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ」に織り込み済みですが、次期以降想定される当社グループ内の外貨建貸借取引に対する単体・連結決算上の為替評価損益リスクを軽減することができました。

以上